

『十字架でのあがない』 20/04/12(イースター・ライブ礼拝) 聖書箇所:ヨハネの福音書 19章 28-30節(新約 p.221-)

皆さん、おはようございます。それと、今日は、1年に1度、イエス様の復活をお祝いする「イースター」でもあります。皆さん、イースターおめでとうございます！今日も、このような感じで、ライブ配信での礼拝を捧げておりますけれども…、でも、場所はどこにあっても、私たちの気持ち…、私たちの信仰に変わりはありません！今日も、神様への感謝と献身の思いを込めて、精一杯の礼拝を捧げて参りましょう！

<メッセージ>

皆さんも、よくご存知のように、私たちクリスチャンは、毎週日曜日に、イエス・キリストの復活を記念して…、また、そのことを感謝して、礼拝を捧げています。しかし、今日は、1年に1度しかないイースター礼拝であります。だからこそ…、どうか、皆さん、考えてみてください！…ここ日本にあつては、実に多くの方が、イエス・キリストが十字架にかかって死んでくださったということを、“知識の上でなら”知っています。また、聖書のみことばは、そのイエス様が、死後、3日目によみがえられた！ということをお教えている、ということも、これまた、大変有名です。

でも、残念なこととして…、特に、ここ日本におきまして、「じゃあ、一体どうして、そのイエス様が十字架にかかられたのか？」という“理由”を知っている人は、ほとんどおりません…。実は、かく言う私自身も、かつてはそうでした。どうか、皆さん、考えてみてください。そもそも、「十字架」というものは、死刑の方法…、あるいは、死刑の道具でありました。…にも関わらず、一体どうして、世の中の多くの教会は、本当ならば、忌み嫌うべきような十字架を、自分たちの教会のシンボルとして扱い…、また、大事にしているのでしょうか？

命題: イエス・キリストの十字架とは、どのようなものであったのでしょうか？

そこで、イースターの今日は、今から約 2000 年前、イエス・キリストがかかられた、あの十字架が、一体、どういったようなものであったのか？ 私たちは、イエス様の十字架を、どのように理解し…、また、どのように受け入れるべきなのか？ということ、を、一緒に、聖書のみことばから学んでいきたいと思ひます。そうして、私が皆さんに訴えたいことは…、もしも、皆さんが、イエス様が十字架にかかってくださった本当の理由を理解してくださり…、それを信じ受け入れてくださったら、間違いなく、皆さんの人生は変わる、ということです。私が願ひますのは、今日、このメッセージを聴いてくださった皆さんが、イエス様のかかってくださった十字架の目的というものを、しっかりと理解して下さって…、神様の皆さんに対する大きな愛を知っていただき…、神様からの恵みを自分のものとしていただきたい！ということです。

聖書のみことばは、ヨハネ 19:28-30 になります。どうぞ、聖書をお持ちでしたら、ヨハネ 19:28-30 をお開きください。まずは、初めに、今日のみことばをお読みしたいと思います。<参考: 十字架上の七言の⑤『わたしは渇く』&⑥『完了した』>

28 この後、イエスは、すべてのことが完了したのを知って、聖書が成就するために、「わたしは渇く」と言われた。

29 そこには酸いぶどう酒のいっぱい入った入れ物が置いてあった。そこで彼らは、酸いぶどう酒を含んだ海綿をヒソブの枝につけて、それをイエスの口もとに差し出した。

30 イエスは、酸いぶどう酒を受けられると、「完了した」と言われた。そして、頭をたれて、霊をお渡しになった。

I・十字架刑は、最高の「苦しみ」であった！(28-29 節)

まず、今日1番に、皆さんに覚えていただきたいことは、十字架とは、私たち人間が経験する苦しみの中でも、最高の“苦しみ”であった！ということです。イエス・キリストは最高の苦しみを、あの十字架の上で、お受けになられたのです。まずは、そういったことを確認していきたいと思ひます。

今、読んだみことばを見てみますと、十字架上で、イエス様が口にされた、『わたしは渇く…』(28 節)という言葉がありました…。もちろん、この時、イエス様は、十字架上で磔にされていたわけですから、そのイエス様が渇きだけではなく…、肉体的にも、大変な状況にあったのは明らかです。

でも、皆さん。どうぞ、ちょっと、今日のみことばに注目していただきまして…、『わたしは渇く…』というみことばの直前に記されてある、『聖書が成就するために…』(28 節)という言葉があることに気付いてくださいます？ここで言われている、『聖書』というのは、間違いなく、「旧約聖書」のことを指しています。…と言うのは、この時点では、まだ、「新約聖書」は書き始められてもいなかったし…、ここで言われていることは、先(=未来)に関する預言の成就のことであるので、イエス様が十字架にかかられるよりも前に記されていないと、意味が無いからです。…それと、実は、この旧約聖書というのは、少なくとも、イエス様が十字架にかけられる、400 年以上も前に書き終えられていたことが分かっています。

…と言うことはつまり、この言葉が私たちに教えてくれていることは、イエス様の苦しみが、決して、偶然では無かったということです！イエス様が十字架にかけられて…、苦しめられるということは、実は、それよりも何百年以上も前に、神様によって預言されていた…、つまり、神様の御計画であった、ということなのです。

今日のみことばに記されてありますように…、イエス様の発せられた、『わたしは渇く…』という言葉を受けて、その直後、(ローマの)兵士が動きます。⇒29 節、『そこには酸いぶどう酒のいっぱい入った入れ物が置いてあった。そこで彼らは、酸いぶどう酒を含んだ海綿をヒソブの枝につけて、それをイエスの口もとに差し出した。』とある通りです。実は、これは詩篇 69:21 の、『彼らは私の食物の代わりに、苦味を与え、私が渇いたときには酔(=酸味の強いぶどう酒? =余計に喉が渇くように?)を飲ませました。』という預言の成就なのです。実は、この詩篇は、かのダビデ王によって記されたか、編纂されたと考えられていますから、もしも、それが本当だとすると、約束の救い主が大変な辱め(=苦しみ)を受けるといふ預言(エレミヤの時代?)が、実に 1000 年も前になされていた！ということになります。そして、この預言された通り、まさしく、イエス様は私たちの想像を絶するような、大変な辱めを…、苦しみを受けられたのです！

①最悪の犯罪人として…

でも、実際、どのような辱めがあったのかと言ひますと、まず、第1に、イエス様は最悪の犯罪人として、辱められ…、苦しみを受けられた、ということです。…と言ひますのも、実は、この当時、支配者側であったローマ人たちが十字架の上に磔にされるということは有り得なかったからです。この当時、十字架刑に処されるのは、謀反者や強盗、あるいは、殺人者などといったような、所謂、重罪人たちだけでありました。実際、イエス様と一緒に十字架刑にされたのも、強盗たちでありましたでしょ？(マルコ 15:27)

しかし、イエス様の両脇で十字架の上に磔にされたような強盗たちとは違い…、イエス様が何の罪も犯していなかったことは、当時、イエス様の弟子たちだけでなく…、イエス様のことを裁いた総督ピラトもはっきりと証言していました(ルカ 23:4,13-25)。それなのに、イエス様は“自ら進んで”、十字架にかかっていったのです(十字架の予告=①マタイ 16:21-28、②マタイ 17:22-23、③マタイ 20:17-19(はっきりとエルサレムでの十字架について話されている))

⇒マタイ 20:17-19、『17 さて、イエスは、エルサレムに上ろうとしておられたが、十二弟子だけを呼んで、道々彼らに話された。 18 「さあ、これから、わたしたちはエルサレムに向かって行きます。人の子は、祭司長、律法学者たちに引き渡されるのです。彼らは人の子を死刑に定めます。 19 そして、あざけり、むち打ち、十字架につけるため、異邦人に引き渡します。しかし、人の子は三日目によみがえります。』、また、ヨハネ 10:18 のイエス様の教えでも、『だれも、わたしからのちを取った者はいません。わたしが自分からのちを捨てるのです。…』、これら以外に、マタイ 26:36-56 のゲツセマネの園での行動、裁判での様子などもあります。

このように…、何とイエス様は、最低最悪の犯罪人として裁かれるために、“自ら進んで”十字架へと向かっていかれた、というのは間違いありません。…でも、一体、それはどうしてなのでしょう？そのことを見ていく前に、もう少し、十字架が与える苦しみについて考えていきたいと思います。

② 苦しみの時間

十字架刑が最高の苦しみであるとされる、もう1つの理由は、十字架刑が与える苦しみの時間からも分かります。…と言いますのも、実は、聖書を見てみますと、イエス様は朝の9時から午後の3時まで(マルコ 15:25,34)という、実に6時間もの間、十字架上で苦しまれたことが分かります。これは、あくまでも例えですが、フランスで考え出されたギロチンなどは、一見、とても残酷なように見えますが、当の犯罪人からすると、苦しみそのものは、ほんの一瞬です。しかし、十字架刑というのは、そもそものルーツが追放(≒死刑)にあったと考えられています。しかし、追放しただけでは、その後、生き延びてしまう可能性などもあったので、それがやがて、木に縛り付け、死ぬまで放置する方法が取られるようになっていったのだそうです…。その間、犯罪人は無防備になり…、苦しみながら、みっともない姿をさらけ出して、死んでいくわけでありました。

もう少し具体的に言いますと、人を十字架にかける時は、初め、手を十字架に釘付けにして(前腕の尺骨と橈骨(とうこつ)の間)、その後、十字架が立てられ…、今度は、足を上に押し上げられ…、その足を釘付けにするのだそうです。死因は、多くの場合、出血多量ではなく…、窒息死(=血液の循環が阻害され、心臓が活動停止する?)だと言われています。それまでの間、十字架に磔にされた人物は体重を交互に上(=手側)や下(=足側)にかけて苦しんで、苦しみながら死んでいくそうです。そういった時間が、イエス様の場合は、何と6時間もあったと言うのです。

③ その前、流れ、体力的限界

しかも、イエス様の場合は、それだけではありません。イエス様は見せしめのため…、自分がこれから磔にされる、その十字架の横木を背負って、「ヴィア・ドロローサ(悲しみの道)」という道を歩かされました。その道は現在もありますが、この当時からも、それは狭い通りで…、たくさんの商店・露店が並ぶような所で…、まさしく、イエス様は「見せしめ」にされたわけであり…、言わば、エルサレム中を引き回されたとも言えます。それだけではありません。イエス様は、十字架の直前に、39度のむちを打たれたわけ(40度打つと絶命すると言われていた)…、体力的にも限界の状態であったことは間違いありません。

これ以上の苦しみの処刑、みじめな死に方というのは、そう滅多にあるものではありません…。そんな十字架刑に、イエス・キリストは自らかかっていかれたのです。

Ⅱ・十字架には、明確な目的があった！(30節)

イエス様が、そのような最高の苦しみを受けておられた時…、十字架の上で、イエス様は、驚くべき言葉を口にされました。それは、『完了した…』(30節)という言葉です。でも一体、どうしてなのでしょう？

普通なら、一緒に磔にされていた強盗のように(ルカ 23:39)…、憎まれ口や呪いの言葉などを発するのではないのでしょうか？でも、この言葉が明らかにしてくれたことは、イエス様の十字架には、明確な「目的」があった！ということでありました。それが、今日のメッセージの2番目のポイントであります。

● イエス様が発せられた、『完了した』という言葉

この時までのイエス様の生涯を、簡単に振り返ってみると、一見、イエス様は世の人たちがうらやむようなものは、何一つ持ってはいませんでした。イエス様は、家畜小屋で生まれ…、特別有名な町で育ったわけでも…、特別優れた教育を受けた、というわけでもありませんでした。イエス様が公の生涯に入った後も、12弟子を始めとする、たくさんの弟子たちが居ましたが、この十字架の時、ある者は裏切り…、多くの弟子たちは、恐れあまり、イエス様を見捨てて、逃げてしまっていました。

一見、この、イエス様の人生を振り返ると、「何と、私は惨めな人生を送ってきたのか…」とか、「自分は不幸であった、失敗した…」というような言葉を残して、死んでいってもおかしくないような状況でした。しかし、実際はそれとは全く逆でした。イエス様は、『完了した！』、そう言って、息を引き取ったのです！

この『完了した…』(30節)という言葉は「終了した」という意味の他に、「成し遂げた、実現した」とか、「支払い終わった」という意味の言葉で、言い換えれば、「私は、もう成し遂げた」とか、「すべて払い終わった」という意味になるような言葉であります。この言葉が意味することは…、先程も言いましたように、イエス様がかかってくださった十字架には、ちゃんとした目的があった！ということなのです。

① 罪の罰、あがないをなすため

聖書が教えるのは、『罪から来る報酬は死』(ローマ 6:23)であるというように、罪を犯した者への罰は、本来、「罪を犯した者のいのち」であります。…と言いますのは、聖書が教えてくれている、真の神様という御方は、すべての点において、完璧な御方であるからです！

良いでしょうか？皆さんのことを評価し…、皆さんのことを裁かれる御方は、聖さや正しさにおいても、また、愛や憐れみにおいても…、すべての点において、完全な御方であられるがゆえに、私やあなたに対しても、常に、完全を要求されるのです。…だから、皆さん、覚えてくださっています？イエス様は、山上の説教の途中、マタイ 5:48 で、こう教えてくださったでしょ？『だから、あなたがたは、天の父が完全のように、完全でありなさい。』って…。また、ヤコブ 2:10-11 には、こうもあります、『10 律法全体を守っても、一つの点でつまずくなら、その人はすべてを犯した者となったのです。 11 なぜなら、「姦淫してはならない」と言われた方は、「殺してはならない」とも言われたからです。そこで、姦淫しなくても人殺しをすれば、あなたは律法の違反者となったのです。』って…。

⇒このように、天の神様は、完全な御方であられます！だから、私にも…、そして、皆さんにも、神は、常に完全を要求されるのです！…実は、私は、つい最近、Facebook 上で、ある動画を見ました。そこには、何人かの牧師たちが神様について協議(=話し合い)をしているのですが、大方の牧師たちは、「一体、なぜ、神様は、エデンの園で、たった1つの命令に背いたアダムやエバに対して、あんなにも厳しい罰(追放と死、子孫の呪い)を下されたのか？」ということを話し始めるのです…。

しかし、それに対して、R・C・スプロール(Robert Charles Sproul)という神学者は、「おいおい、君たちは、何を言っているのだ！」と言って、そこに集まっている神学者たちを叱りつけるみたいなシーンがあるのです。…一体、どうしたことなのか？それは、あまりにも、現代のクリスチャンたちは、神様の恵みや赦しばかりに、目が行ってしまって…、本来、神様が聖い御方であるということや、厳しい御方であるということを忘れてしまっているのではないかと…ということなのです。…いつもいつも、言いますけれども、「一体、神は、あの時に、あんなに厳しいことをなされたのか？」という疑問が出るということは、多分、私たちが、まだまだ、神様の聖さ、正しさについて、甘く見てしまっている…、よく分かっていないから、ではないでしょうか？

皆さんも、よくご存知のはずです。だって、聖書のみことばは、こう教えるじゃないですか？『義人はいない。ひとりもない。』(ローマ 3:10)、『すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができ(ない)』(ローマ 3:23)。また、私たちがつい先週に学んだみことばである、エペソ 2:3 には、何と教えられておりましたか？『私たちもみな、…ほかの人たちと同じように、生まれながら“御怒り”を受けるべき子らでした。』と教えてくれたでしよ？皆さん、これこそ、真の神様からのメッセージです！本来なら、私も…、また、あなたも、神様からの祝福に預かることができず…、永遠の滅びに至るべき存在なのです！…そうでしょ？

本当なら、誰一人、神様から認められて、救われるような人間など…、この地上で一人もおりません。でも、だからこそ、イエス様は自ら進んで、あの十字架にかかってくたさったのです。実は、イエス様は十字架にかかれる日の前夜、ぶどう酒を指して、こんなことを話してくださいました。マタイ 26:28、『これは、わたしの契約の血です。罪を赦すために多くの人のために流されるものです。』って…。イエス様が、あの十字架上で流してくたさった血は…、イエス様が犠牲にしてくたさったいのちは、私たちの罪を赦すための、身代わりであったのです！このイエス様の身代わりの死のゆえに…、言い換えますと、あの十字架の死のゆえに、私や皆さんに、罪の赦しを受けるチャンスが与えられたのです！そのために、私たちの造り主なる神様は、救い主として、イエス様を遣わしてくたさったのです！

聖書は、私たち人間のことを、もともとは、『罪の奴隷』(ヨハネ 8:34; ローマ 6:6-20)であつたと教えます。しかし、イエス様は、そんな「罪の奴隷」であつた、私たちを解放するために、ご自分のいのちを犠牲にしてくたさったのです。実は、この当時、奴隷たちを解放するためには、「贖い金」という、言わば、奴隷たちと引き換えにする身代金が必要でありました。イエス様は、罪を犯して、罪にがんじがらめになっていた私や皆さんのことを救うために、自らのいのちを犠牲にしてくたさったのです！

だから、イエス様も、ある時に、こう教えてくださいました、『人の子(=自分)が来たのが、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるためであるのと同じです。』(マタイ 20:28)って…。それ以外でも、ローマ 3:24、ガラテヤ 3:13、コロサイ 1:14、ヘブル 9:12 など、同じことを教えてくださいました。

実は、イエス様が十字架にかかられた時、非常に興味深いのは、この時、ローマの兵士が、『ヒソブ』(29 節)という植物を使って、イエス様にぶどう酒を与えた、ということが、今日のみことばに記されておりました。…実は、この『ヒソブ』というものは、過越の際(出エジプト記 12:21-22 など)、羊の血を塗るのに使われていた植物なのです。また、詩篇 51:7 に書かれてありますように、この植物は、きよめの儀式などに用いられることもありました。まさしく、イエス様は、『世の罪を取り除く神の小羊』(ヨハネ 1:29)として、十字架上でほふられた、神が備えてくたさった小羊であったのです！当然、ローマの兵士は、旧約聖書に預言されてあるみことばのことなど知らずに、このような行動をとつたはずですが、実は、すべて、この神様の預言通りであつたのです！これって、すごいことじゃありませんか？

ヨハネ 15:13 で、イエス様は、『人がその友のためにいのちを捨てるという、これよりも大きな愛はだれも持っていません。』ということを教えてくださいました。イエス様が、今説明したような苦しみを受けることを分かった上で、自ら進んで十字架にかかってくたさったということは…、言い換えますと、イエス様の皆さんに対する愛が、それほどまでに大きかった！ということを表わしています。…だって、皆さんも、自分が愛していない者のために苦しむ…、相手のために自分のいのちまでも犠牲にするなんてできないでしょ？

②父なる神のみこころを行うため

また、イエス様は、ご自分が天から下って、地上に来られた目的を、このように話しておられます。ヨハネ 6:38-40、『38 わたしが天から下って来たのは、自分のこころを行うためではなく、わたしを遣わした方のみこころを行うためです。39 わたしを遣わした方のみこころは、わたしに与えてくたさつたすべての者を、わたしがひとりも失うことなく、ひとりひとりを終わりの日によみがえらせることです。40 事実、わたしの父のみこころは、子を見て信じる者がみな永遠のいのちを持つことです。わたしはその人たちをひとりひとり終わりの日によみがえらせます。』

⇒イエス様が、この地上に来てくたさったのは、私たちの身代わりとなって、あの十字架で死んでくたさるだけじゃない！イエス様は、父なる神様のみこころを行うために、この地上へ来てくたさったのです！…それは、私やあなたが、そのイエス様と一体とされて…、そのイエス様と同じような歩みをするためだったのです。だから、1 ペテロ 2:21 に、こうありますでしょ？『あなたがたが召されたのは、実にそのためです。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うようにと、あなたがたに模範を残されました。』って…。

私たちがつい先週に学んだエペソ 2:10 にも、こうありました。『私たちは神の作品であつて、良い行いをするためにキリスト・イエスにあつて造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくたさったのです。』って…。また、イエス様は、最後の晩餐の時、何をしてくたさいました？…もうすぐ、自分を捨てて逃げていく弟子たちに対して？

⇒イエス様は、その弟子たちの足を洗ってくたさつたでしょ？…皆さんも、よくご存知のように、この当時、他人の足を洗うという行為は、その当時、1 番身分の低かつた奴隷がすべき仕事だったでしょ？…皆さんは、そんなことをできますか？

そこで、イエス様は、こう教えてくださいました。ヨハネ 13:14-15、『14 それで、主であり師であるこのわたしが、あなたがたの足を洗つたのですから、あなたがたもまた互いに足を洗い合うべきです。15 わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように、わたしはあなたがたに模範を示したのです。』って…。

今日、ぜひ、皆さんにお勧めしたいことは、イエス様の十字架と、そうして、その3日目に約束通りに、よみがえってくたさつたことはもちろん、イエス様がなしてくたさつた模範にも目を留めてくたさつて、そうして、イエス様が歩まれたように、皆さんも歩んでいくてくたさることです。

今、世界中では、新型コロナウイルスによる肺炎が蔓延して…、多くの人たちが恐怖しています。しかし、私たちクリスチャンにとっての死とは、かなり違うのではないでしょか？…と言いますのは、私たちクリスチャンは、死というものを、「すべての終わり…。得体の知れないもの。できれば、経験したくないもの…」ではなくて、この罪あるからだから解放されて、栄光のからだに変えられて、私たちの救い主であるイエス様と会える瞬間でもあるからです。…そうでしょ？

でも、果たして、皆さんは、その死のための備えをしておられるでしょか？私たちが死ぬ確率は、100%です！今日、このメッセージを聞いてくたさつている方全員が、いつか必ず、この肉体の死をいうものを経験するのです！でも、果たして、あなたは、その死に対する備えを…、十分に、しておられるでしょか？真の神様だけを信じ…、その信仰によって新しく生まれ変わっておられるでしょか？ヤコブ書が教えてくたしているような、本物の、生きた信仰をお持ちでしょか？ヤコブ書は、生きた、本物の信仰こそが、人を救うことができると教えてくたしています。果たして、あなたの信仰は本物でしょか？

使徒パウロは、この神様のことを信じようとしぬ人たちのことについて、こう語っています。ローマ 2:5-6、

『5 ところが、あなたは、かたくなさと悔い改めのない心のゆえに、御怒りの日、すなわち、神の正しいさばきの現れる日の御怒りを自分のために積み上げているのです。6 神は、ひとりひとりに、その人の行いに従って報いをお与えになります。』⇒実に、多くの人たちが神様を必要とはしません。神様の存在に気付いたとしても、「その神様の前にへりくだろう！神様に従おう！」とはしません。私たちは、人生は自分のものであると考えているのです。だから、「自分の好きなように生きるのだ。やりたいことだけをするのだ！」と考えます。しかし、本当にそうなのでしょう？あなたの人生は、あなた自身のものなのでしょう？

実は、これまた、私が最近、Facebook で見たメッセージなのですが、そこで、Paul Washer という牧師先生は、「あなたは、天国に行きたいですか？」と尋ねたら、ほぼ 100%誰だって、「天国に行きたい！」と答えるはずだって教えてくれています。…そんなことは、「聖書が教えてくれている信仰を持ちたいですか？」という質問とは、全く異質のものだと、彼は言うのです。正直、非常に残念なのは、多くのクリスチャンたちは、自分自身が救われて、天国へ行くことは望むけれども、そこに、真の神様がいらっしゃるかどうか、なんて気にしていない！と彼は言うのです。…そんなものって、本当の救いじゃないでしょ？

大切なのは、「あなたは、自分のことを造ってくださった真の神様との和解を、本当に望んでいますか？あなたは、この神様が愛されるものだけを愛し…、この神様が憎んでいるものを憎んでいますか？」という風に変えられているかどうか、じゃないでしょうか？

そのことを言い換えますと…、果たして、あなたは、イエス様を愛して…、このイエス様のために生き…、イエス様が残してくださった模範に倣って生きていきたいと思っておられるかどうか、です。そういった変化があるかどうかで、私たちは、その信仰が本物かどうかを吟味できるのです。

だって、使徒ヨハネは、本当に救われたクリスチャンたちの生き方について、こう教えてくれたでしょ？ I ヨハネ 5:1-3、『1 イエスがキリストであると信じる者はだれでも、神によって生まれたのです。生んでくださった方を愛する者はだれでも、その方によって生まれた者をも愛します。2 私たちが神を愛してその命令を守るなら、そのことによって、私たちが神の子どもたちを愛していることがわかります。3 神を愛するとは、神の命令を守ることです。その命令は重荷とはなりません。』って…。

⇒もしも、あなたが、本当にイエス様を信じて救われているのなら…、あなたは、このみことばを愛し、このみことばに従っていききたい！イエス様のように歩んでいききたい！イエス様に喜ばれるような者へと変えられていききたい！ということをお願いするはずで…、どうか、今日、もう1度、あなた自身の信仰を吟味してみてくださいをお勧めいたします。…そうして、もしも、皆さんが、自分の持っている信仰は、ひょっとしたら、この聖書のみことばが教えてくれているものとは違うかも知れない、ということを思われたら、ぜひ、そのことを教えてください！…そのことは、あなたの永遠を左右するかも知れないのです。

今日、この後に賛美したいのは、皆さんもよくご存知の…、私の愛唱歌、讃美歌 121 番です。この教会の皆さんは、ひょっとすると、讃美歌 121 番は、クリスマスソングのように思っておられるかも知れませんが、決して、そうではありません。この讃美歌は、イエス様の生涯について歌ったもので、私たちクリスチャンが実践すべき、イエス様の模範について教えてくれています。どうぞ、イエス様の模範を覚えて…、そうして、私たち1人1人の決心を持ちながら、最後、讃美歌 121 番を賛美していきたいと思えます。その前に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。